

# 次世代の環境洗剤「GP シリーズ」 化学物質のリスクアセスメントを EPA 認定洗剤でサポート



株式会社 TOSHO 代表取締役社長 河野かおり

TOSHO では次世代型環境洗剤「GP シリーズ」(5品目)の販売を始めました。

「GP シリーズ」はアメリカ EPA (環境保護庁) が認定するプロ用の環境洗剤です。環境基準に適合し、人体に優しく、低価格、そして清掃においてもっとも大事な高い洗浄力も兼ね備えています。

## ■EPAとはどんな機関か？

EPA とは、市民の健康保護と自然環境の保護を目的とするアメリカ合衆国の行政機関です。

この行政機関は、洗剤に対して①感染対策および②環境適合の2種類認定を行っています。

### ①感染対策

感染を予防するため除菌性能を評価するもので、最近では日本の病院清掃でも、EPA 登録認定を受けた洗剤を使用する会社が増えています。

### ②環境適合

環境に配慮されているかどうかを認定するもので、「環境適合」と認定された製品には、Safer Choice (セーフチャー・チョイス) のロゴをラベルに使用することが許可されています。



## ■環境に対する取り組みの歴史

1989年、アメリカは世界に先駆けていち早く環境のためのプログラムを開始。非政府組織の「グリーンシール」が発足しました。



「グリーンシール」は非営利の環境基準開発および認証機関です。

1990年初期、EPAも環境のためのデザインを開始。環境 (DfE) プログラムを立ち上げました。

DfE は環境適合設計の略で、取り組みは環境負荷の低い化学薬品の洗剤だけではなく、「製品のライフサイクル全般にわたって、環境への影響を考慮した設計」ということで家電製品などにも適用されています。

実生活の中で身近に感じるのがハイブリッドのエコカーや液晶テレビです。液晶テレビが普及したことにより、トラック一台で運搬できるテレビの台数が増え、それらは使用するガソリンの量や排気ガスの排出などに直結しています。 私たちには分かりやすい例だと言えます。

2015年、Safer Choice は環境 (DfE) プログラムから化学物質の管理に対してより高い専門性を持たせ、内容を強化するためにラベル変更しました。それが Safer Choice (セーフチャー・チョイス) です。

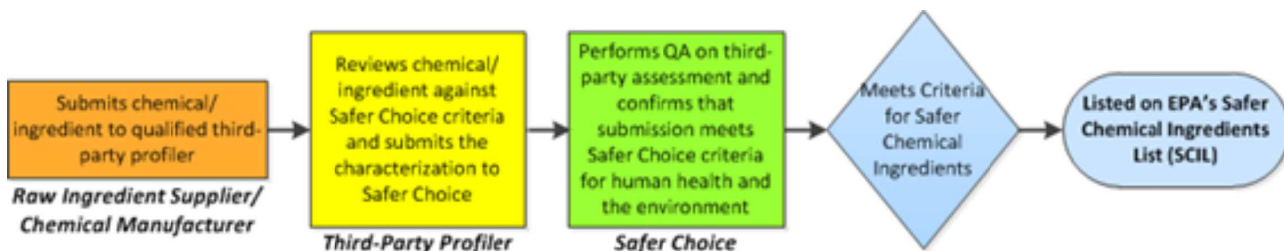
## ■政府主体の莫大なデータベース「SCIL」

原材料メーカーは環境に良い成分を開発し、第三者機関の審査を経て EPA の安全な化学物質の成分リスト「SCIL」に登録することができます。

Safer Choice (セーフチャー・チョイス) プログラムは政府主体で推進されているため、短期間で莫大なデータを集めることができます (750 超、2016 年度調べ)。

洗剤メーカーは「SCIL」リストの中から安全な成

「SCIL」登録までのフローチャート



化学薬品を提出する	ケミカル成分が Safer Choice 基準に満たしているかチェックする	第三者評価による QA を実施する。商品が人体の健康と環境のための基準を満たしているか検証	より安全なケミカル成分としての基準に満たしていると判断	EPA の「SCIL」リストに加える
原材料メーカー	第三者機関プロファイラー	セイファーチョイス		

分を選んで独自のブレンドを行い開発します。環境承認されているリストの中から選んで作るため、製品は環境に適合したものとなる、とても合理的なシステムです。あとは、床用、カーペット用、水まわり用といった用途や、洗浄力の強さなどは各社が持つノウハウをもとに製品化します。

■2000 品目以上の Safer Choice 認定製品

政府機関である EPA は商業目的ではなく、自然環境と人体に対する安全性の取り組みのために「SCIL」のデータベースを作っています。つまり、政府が開発の一部を担うことで洗剤メーカーは開発にかかる莫大な費用を抑えることができ、低コストでハイレベルの製品を生み出すことができるのです。

一番大切なことは製品を安価にすることでより多くの人に使ってもらい、自然環境保護へとつなげることなのです。

すでに 2000 品目以上が Safer Choice の認定を受けています。「GP シリーズ」はプロ用ですが、その他に家庭用洗剤としての認定基準もあります。



アメリカではホームセンターやスーパーなどに、認定ロゴが入った製品が一般的に売られています。

■日本の労働安全衛生マネジメントシステム

ここまでは、アメリカの基準、認証、環境に対する取り組みをお話ししました。では、日本の政府は化学物質に対してどのような取り組みをしているのでしょうか？

厚生労働省が労働安全衛生法を改正して1年が経ちます。昨年6月、労働災害を防止するため化学物質を取り扱う事業者向けにリスクアセスメントの実施が義務付けられました。

これに伴い、化学薬品（洗剤）メーカー（輸入品も含む）は、化学物質の危険性や有害性を特定するため、製品ラベルに絵表示と注意書き（GHS 分類）の表示が必要となり（次ページ図参照）、安全データシートは GHS 国連勧告に基づく記載項目（16 項目）が含まれる SDS へと変更されました。

■なぜリスクアセスメントが必要なのか？

従来は、労働災害の発生を防止する対策が取られてきました。しかし、近年では危険性や有害性が多様化しており、職場の潜在的なリスクに対し、事前に対策を講じる必要性が高まってきました。

リスクアセスメントの義務化により、清掃現場でも使用する製品に対象物質が含まれているかどうかの確認が必要となりました。危険度評価対象となっている化学物質が配合されている洗剤をどのように

危険・有害性を特定する製品ラベル

 【炎】	可燃性 / 引火性 引火性液体 可燃性固体 自己反応性化学品	 【向上の炎】	支燃性・酸化性ガス 酸化性液体・固体	 【爆発の爆発】	爆発物 自己反応化学品 有機過酸化物
 【腐食性】	金属腐食性物質 皮膚腐食性 眼に対する重大な 損傷性	 【ガスボンベ】	高压ガス	 【どくろ】	急性毒性 (区分1～3)
 【感嘆符】	急性毒性 皮膚刺激性 眼刺激性 皮膚感作性 特定標的臓器毒性	 【環境】	水生環境有害性	 【健康有害性】	呼吸器感作性 生殖細胞変異原性 発がん性 生殖毒性 特定標的臓器毒性 (区分1、2) 吸引性呼吸器有害性

使っていくのか、事業場では「リスクの見積もり」「リスクの低減処置」を検討しなければならなくなりました。

なお、昨年6月1日施行の段階では640物質がその対象となっていました。今年年3月1日には27物質が追加されました。

#### ■「GPシリーズ」とリスクアセスメント

Safer Choiceの認定を受けた「GPシリーズ」の成分のなかに、リスクアセスメント対象化学物質が含まれているかどうかを調べたところ、過酸化水素(GP107に含まれている)以外、全商品不該当でした。界面活性剤においては100%不該当です。

使用する洗剤に対して、事前にリスクを見積もって対策を講じて選ばなければならない中で、リスクアセスメントの実施義務の対象物質が含まれていない「GPシリーズ」から簡単に選ぶことができます。

企業が環境問題に取り組む姿勢と責任において、「GPシリーズ」を積極的に使用することにも大きな意味があると思います。



#### 「GPシリーズ」製品

GP101	HDクリーナー	床、壁、多目的洗剤
GP104	タイル&ボウルクリーナー	水回り用洗剤
GP107	パーオキシイドクリーナー (過酸化水素配合)	トイレ用洗剤
GP105	カーペットクリーナー	カーペット用洗剤(前処理&洗浄)
GP118	結晶化カーペットクリーナー	カーペット洗剤(セミドライ方式用)

#### EPA登録感染対策用洗剤

FL222	レモングリーンDD	多目的除菌洗剤
FL285	ジャムワイプ	トイレ用除菌洗剤
FL630	フロクワット	除菌、消臭剤(サニタイザー)

#### ■LEEDはSafer Choiceの製品を推奨

LEEDとは、環境に配慮した建物に与えられる認証システムです。日本は諸外国に比べると少し出遅れていますが、近年大手企業が積極的にLEED認証を取得しています。YKK本社ビルがオフィスビルとして日本初の最高ランク「プラチナ認証」を取得したことは、大きなニュースになりました。ほかにも、NEC、森ビル、大成建設、コクヨ、大林組、スターバックスなど多くの企業がLEED認証を取得しています。

LEEDは、認証を受けた建物にSafer Choiceの認定洗剤を使用することを推奨しています。

\*

TOSHOSHはCOSCHEMブランドとして日本の清掃が求めるオリジナル製品をアメリカで開発製造しています。一方、アメリカで認証を受けている高品質の製品をピックアップして販売しています。今後も、使う側の視点で時代が求める製品を開発、紹介していきたいと思えます。

【問い合わせ】株式会社TOSHOSH

電話：03-5929-9400 URL：www.coschem.jp